

## 【奨励賞】

### 価値のあるもの

長浜市立高月中学校の生徒の作品

人権問題と聞くといじめや人種差別などを頭に思い浮かべる。それらは、私の身の回りではあまり縁のないことで、どこか他人事のように思っていた。しかし、思い返してみると、身近な日常にも人権に関係する疑問や出来事がたくさんあることに気付いた。そこで思い出した、小学校の頃の出来事について、もう一度、人権という観点から考えてみた。

小学校の同級生に障害をもった男の子がいた。一学年に一クラスしかなかったので、六年間をその子と一緒に過ごした。中学年の子のときの運動会のことだった。親も見にくる運動会。リレーで絶対勝ってやると張り切っていた。しかし、その子はグラウンドの真ん中をショートカットして突っ切った。そのことでリレーはその子のいる団の勝ち。納得いかない子は多かったはずなのに、先生はそのことについて何も触れなかった。「そんなのずるじゃん。その子だったら何しても許されるの？」私はそう思ってモヤモヤしてしまった。また、こんな年もあった。小学六年生のことだ。これもまた運動会のリレーの話になるのだが、私はその年、その子と同じ赤組になった。その子はハンデとして、数十メートル先からスタートした。そのハンデだけが理由なのか、他の子が速かったからなのかはわからない。しかし、練習はいつも私たちの団が一位だった。その時、友達に言われたことがある。「そんなの不平等や不平等！青組と黄組合わせて緑組な。赤組はずるやからしっしっ！」結構仲のいい友達だったので、仲間外れにされてとても悲しかったし嫌だった。なにか上手い解決方法はないのか。みんなが納得のいくハンデの決め方はないのか。たくさん考えてみたが、何もいい手は思いつかなかった。この2つのリレーでの出来事で感じた私の心のモヤモヤは、まだ幼く、平等と公平の理解が十分でなかったからだと思う。

突然だが、平等と公平の意味の違いを知っているだろうか。平等とは、すべての人を同じように扱うこと。公平とは、一人ひとりに必要なサポートを提供することだ。リレーの時のような状況では、どちらを優先すべきだったのだろうか。小学生の時はわからなかった。けれど、中学生となった今、私は公平の方を優先すべきだと思う。そう考えたきっかけは、中学二年生の体育祭で、担任の先生に言われた言葉だ。「勝ちよりも価値のある体育祭になった。」この言葉を聞いて、私はすっきりとした。あの時、障害のあった子に合わせて公平に行うことで、クラスの全員でそれぞれの配慮の上で運動会ができたのなら、それは「勝ち」以上に「価値」があることなのだ。あの時そんなことに気付かず、男の子に対して腹を立ててしまった自分を恥ずかしく思う。価値に気づき、相手を受け入れることが大切なのだ。

二つ目の出来事は、小学四年生の時の話だ。若い女の先生が担任の先生だった。なんとなくだが、生徒によって態度が違った。私と喋るときは冷たい気がした。「嫌われてるのかな。」気のせいかなと思っていた。しかし、ショックを受ける出来事が起きた。その先生は、生徒の誕生日の朝は、黒板に「お誕生日おめでとう」と書いていた。私の誕生日の朝、「先生なに書いといてくれるのかな。」と少し楽しみにして登校した。学校に着く。教室に入る。黒板には何も書かれていない。「先生忙しかったのかな。」「クラス全員の誕生日暗記してるわけじゃないだろうし、忘れてるだけかな。」私の誕生日なのに何も書かれていないことに気が付いた友達が先生に言ってくれた。「今日誕生日ですよ。」先生は、「ああ、そうですか。」とだけ言った。泣きそうになった。謝ってくれと思ったのに何もなし。平気なふりをした。気にしないようにした。けれど頭から離れない。先生には、この件に関しては生徒全員平等に扱ってほしかった。改めて平等と公平は難しいし、人って些細なことで傷つくんだと思った。

私もこれまで誰も傷つけたことがないとは言い切れない。人は些細なことで傷つくと知っているのだから、より一層言動に気を付けていきたいと思う。また、今はSNSが身近になり、態度だけでなく指一本で人を傷つけてしまうことがあると常に意識したい。これらの話は小学校の時の話だが、中学校に入っても人間関係で悩みは尽きない。誰に対しても腹を立てないことも、誰一人傷つけないことも難しい。けれど、時と場合によって、平等と公平を使い分け、そのバランスが正しいかどうか確かめていきたい。そうすれば、日常が今よりももっと価値のあるものに見えてくるはずだから。